

# 津和野町観光振興計画

平成 29 年 3 月

津和野町



## 目次

<b>第1章 津和野町観光振興計画の策定について</b> .....	1
1-1 計画の目的.....	1
1-2 計画の期間.....	1
<b>第2章 津和野町における観光の現状と課題</b> .....	2
2-1 近年の観光を取り巻く動向.....	2
2-2 津和野町観光の現状.....	4
2-3 津和野町観光の課題.....	8
<b>第3章 津和野町観光のめざす姿</b> .....	11
3-1 津和野町観光の基本理念.....	11
3-2 津和野町観光の基本方針.....	12
3-3 具体的な施策.....	16
<b>第4章 津和野町観光の推進体制</b> .....	27
4-1 観光振興計画推進のための各主体の主な役割.....	27
4-2 津和野町観光の推進体制.....	28



# 第1章 津和野町観光振興計画の策定について

## 1-1 計画の目的

津和野町は豊かな自然や歴史文化遺産に恵まれ、官民が一体となってその美しいまち並みや景観を守ってきた。とりわけ津和野地区は城下町として歴史ある美しいまち並みを回遊する観光をめざし年間約 100 万人の観光客が訪れ、島根県石見地域の代表的な観光地となっている。しかし、津和野を訪れる観光客は日帰り客が主体で、宿泊する人は約 4 万人で、宿泊者率は 3%となっている。

全国的な人口減少社会において、日本人による国内観光の需要が縮小している中、国はインバウンド観光の推進による外貨の獲得を目指している。津和野も近年外国人の姿をよく見るようになってきたことから、受け入れ態勢を強化するとともに、体験型観光により滞在時間を延長し、観光消費を高めていく必要がある。

津和野は多様な観光資源に恵まれているが、それらを活かしきれていないといわれる。平成 27 年に江戸時代の城下町の風景を描き残した「津和野百景図」に基づいたストーリーが日本遺産に認定された。津和野町日本遺産センターではこの百枚の絵図をテーマとした新たなまち歩き観光のスタイルを提案している。四季を通じて津和野の魅力ある自然や文化、食といった魅力ある資源を組み合わせることで、さらなる魅力発信ができ、津和野町全体として観光による経済波及効果を高めていくことが可能となる。

そのためには、行政や観光協会、事業者、住民それぞれが一体となって取り組むことが必要となる。そのためにはそれぞれの役割を明確にするるとともに、戦略的な観光施策をたて、着実に実行していくしか方法はない。

これまでのまちづくりをベースに、観光素材を一つひとつ磨きながら、津和野町の観光を今後も発展させていくという考え方のもとに、この津和野町観光振興計画を策定する。

## 1-2 計画の期間

本計画の期間は、平成 29 年度（2017 年度）から 33 年度（2021 年度）までの 5 年間とします。

## 第2章 津和野町における観光の現状と課題

### 2-1 近年の観光を取り巻く動向

#### 1. 明日の日本を支える観光ビジョン～世界が訪れたくなる日本へ～

平成28年に国により策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」には「観光先進国」として飛躍するための「3つの視点」と「10の改革」が示されている。

我が国には豊富で多様な観光資源が存在しているが、それらを十分に活用し、より多くの旅行者を呼び込む努力が不足している面が多い。各地に保存されている文化財や保護されている自然といった地域の資源を、その質を保ちながら旅行者の視点に立って整備し、活用していく必要がある。

#### 視点1 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に

- ▶ 「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放
- ▶ 「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ
- ▶ 「国立公園」を世界水準の「ナショナルパーク」へ
- ▶ おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しいまち並みへ

#### 視点2 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に

- ▶ 古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ
- ▶ あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現
- ▶ 疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化

#### 視点3 すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

- ▶ ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現
- ▶ 「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現
- ▶ 「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現

#### 2. 平成28年度観光白書と観光ビジョン実現プログラム2016

平成28年度観光白書は、『成長する世界の旅行市場を我が国の活力に～「世界が訪れたくなる日本」への飛躍』を目標とし、目指す方向として以下の3つが挙げられている。

- ① 観光産業を日本の基幹産業への発展
- ② MICE※誘致・開催の支援体制の改善
- ③ 旅行者の利便性・快適性を重視した環境整備

※MICE: Meeting (会議・研修・セミナー)、Incentive tour (報奨・招待旅行)、Convention または Conference (大会・学会・国際会議)、Exhibition (展示会) の頭文字をとった造語。

### 3. 国内の観光動向

#### (1) 訪日外国人旅行者の推移

2015年における訪日外国人旅行者数は、過去最高の1,974万人（対前年比47.1%増）となり、3年連続で過去最高を更新するとともに、統計を取り始めた1964年以降で最大の伸び率を記録した。（2016年度観光白書より）

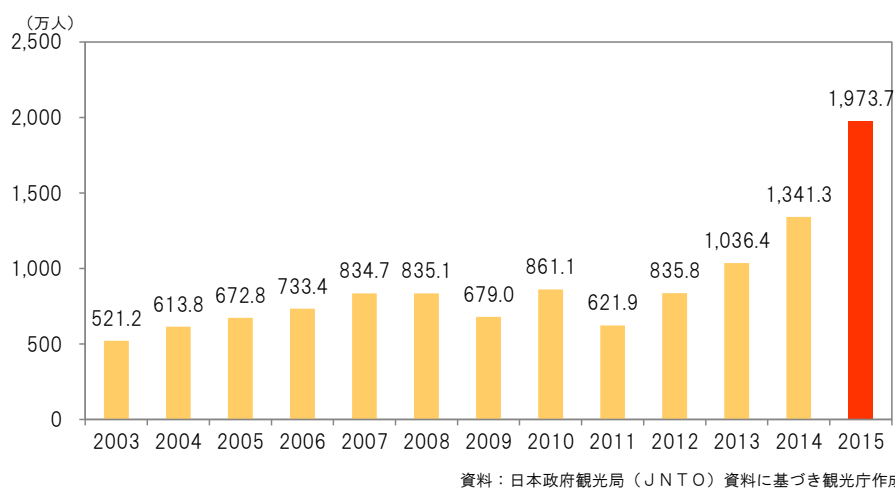


図1 訪日外国人旅行者数の推移

#### (2) 国内の年間旅行回数と宿泊数の推移

2015年における国民1人当たりの国内宿泊観光旅行回数は1.4回（前年比9.8%増）、国民1人当たりの国内宿泊観光旅行宿泊数は2.3泊（同12.3%増）となっている。（2016年度観光白書より）

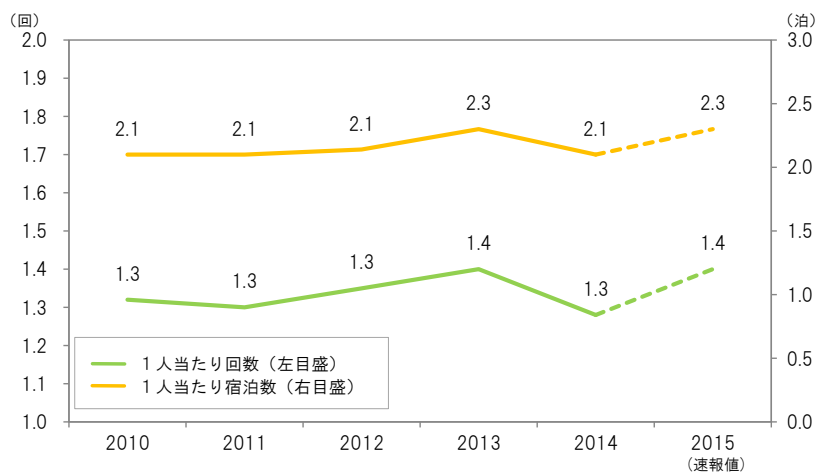


図2 国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

## 2-2 津和野町観光の現状

津和野町は年間約 120 万人の観光客が安定的に訪れる観光地である。島根県内では7位の入込客数である。

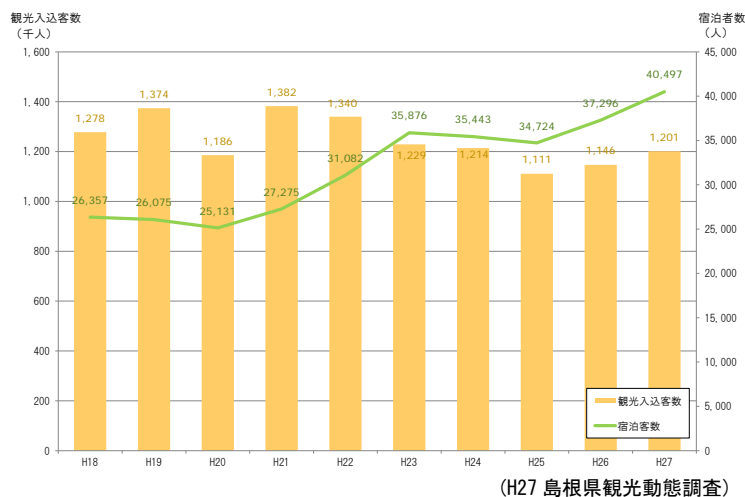


図3 観光入込客数および宿泊者数推移

表1 島根県内市町村の観光入込客数上位10位

単位:千人

順位	市町村	観光入込客数
1	出雲市	12,495
2	松江市	10,062
3	浜田市	1,825
4	雲南市	1,483
5	大田市	1,381
6	安来市	1,287
7	津和野町	1,201
8	益田市	984
9	奥出雲町	813
10	邑南町	408

(H27 島根県観光動態調査)

津和野町の観光地別入込客数をみると、太鼓谷稲成神社が55.5万人と最も多い。特に、新年の初詣客が大半を占めるため、津和野町の観光入込客も月別にみると1月が圧倒的に多くなっている。津和野の観光は、太鼓谷稲成神社を含む城下町のまち並みを楽しむ観光が主体となっている。まち並みの一部は重要伝統的建造物群保存地区になっており、景観計画を踏まえたまち並み保存を進めている。また、官民が運営する美術館、博物館が点在し、回遊型観光の要素となっている。

表2 観光地別入込客数

単位:人

順位	観光地名	入込客数
1	太鼓谷稲成神社	555,320
2	道の駅シルクウェイにちはら	308,275
3	道の駅なごみの里	211,326
4	三本松城跡観光リフト	22,489
5	SLやまぐち号	21,878
6	森鷗外旧宅	20,979
7	安野光雅美術館	18,694
8	森鷗外記念館	14,531
9	高津川・鮎釣り	14,040
10	津和野民俗資料館	3,689
11	日原文天台(星と森の科学館含む)	2,518
12	津和野郷土館	2,487
13	桑原史成写真美術館	1,002
14	石見の夜神楽公演	997
15	枕瀬山森林公園キャンプ場	233
	その他(安蔵寺山、杣の里 他)	2,731

(H27 島根県観光動態調査)

また、道の駅シルクウェイにちはらや道の駅津和野温泉なごみの里に20万~30万人の送り客がいる。また、JR津和野駅の利用客数は36.3万人となっている。これらの施設は、津和野観光の情報発信施設となっている。



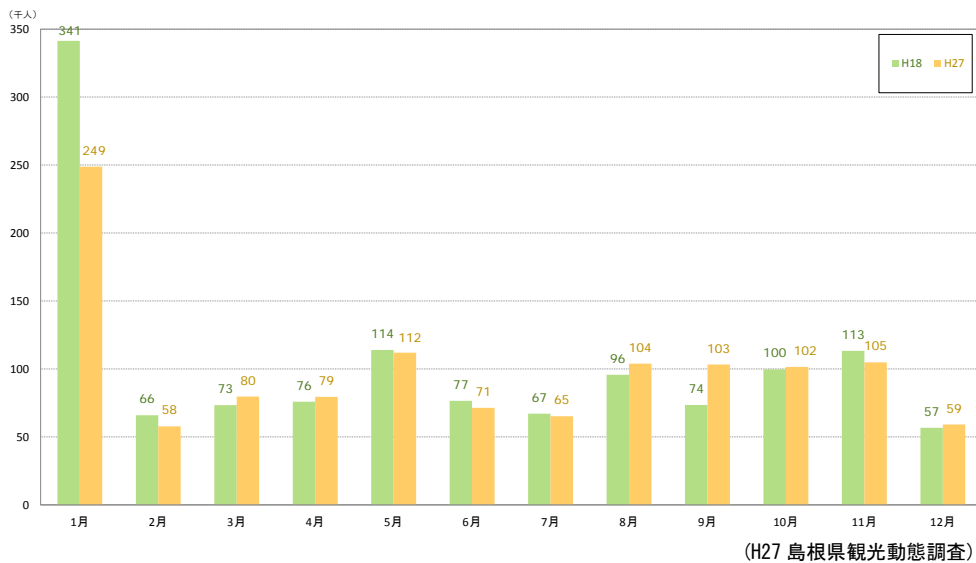


図4 月別観光入込客数の比較 (H18年・27年)

津和野町では、観光資源の発掘や伝統文化を後世に伝えていく取り組みを進め、それらを活かした回遊型観光への転換を推進し始めた。また、まち並み観光に加えて、堀庭園や高津川など観光の中心部から少し離れた歴史や文化、自然などの観光資源の活用の期待も高まっている。



さらに、美しいまち並み景観とその周囲を囲う自然景観、清流高津川がつくる文化的景観、美しく輝く夜空など、四季折々の景観を楽しむことができる。また、春から秋にかけてはSLやまぐち号が運転され、美しい景観をバックにSLを写そうとする鉄道マニアも多数来訪している。SLは津和野の魅力を高める重要な観光資源となっている。

津和野の宿泊客数は4万人で県内8位となっている。近年宿泊者数は増加傾向にあるが、観光入込客数に対する宿泊者の割合は3%となっている。宿泊施設としてはホテル、旅館、民宿、ペンションがあり、宿泊容量は約600人/日となっている。

宿泊者数に外国人が約1,000人含まれており、宿泊者の2.5%を占めている。外国人の約6割がヨーロッパ系であり、年々増加している。島根県内で見ても、ヨーロッパからの来訪割合が圧倒的に多いことが分かる(図6)。

表3 観光地別入込客数

宿泊者数 ランキング	市町村名	宿泊客数 (人)	観光客数 (人)	宿泊割合
11	西ノ島町	30,017	41,353	73%
18	知夫村	6,610	9,291	71%
6	隠岐の島町	71,075	133,059	53%
15	海士町	12,202	36,487	33%
7	江津市	67,194	278,472	24%
1	松江市	2,088,715	10,061,918	21%
4	益田市	194,169	983,772	20%
3	浜田市	261,903	1,825,247	14%
19	川本町	4,978	42,295	12%
5	大田市	161,487	1,381,353	12%
14	美郷町	14,366	128,083	11%
12	邑南町	22,402	407,691	5%
2	出雲市	602,875	12,495,489	5%
17	吉賀町	9,964	244,551	4%
16	飯南町	11,886	305,086	4%
10	奥出雲町	31,270	812,982	4%
8	津和野町	40,497	1,201,189	3%
9	安来市	33,592	1,287,206	3%
13	雲南市	22,025	1,482,906	1%

(H27年島根県観光動態調査)

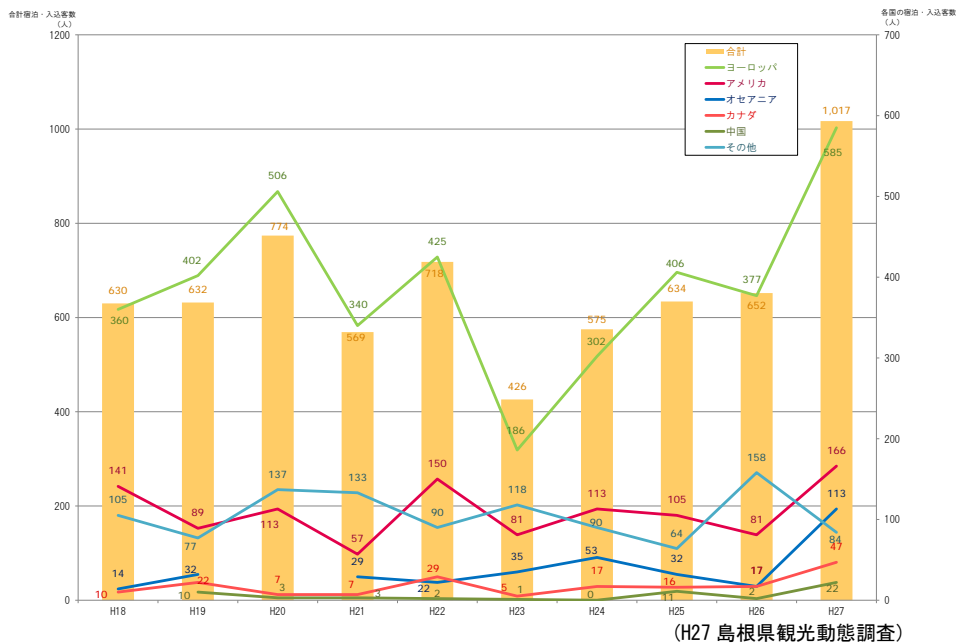


図5 津和野町における外国人宿泊者数の推移

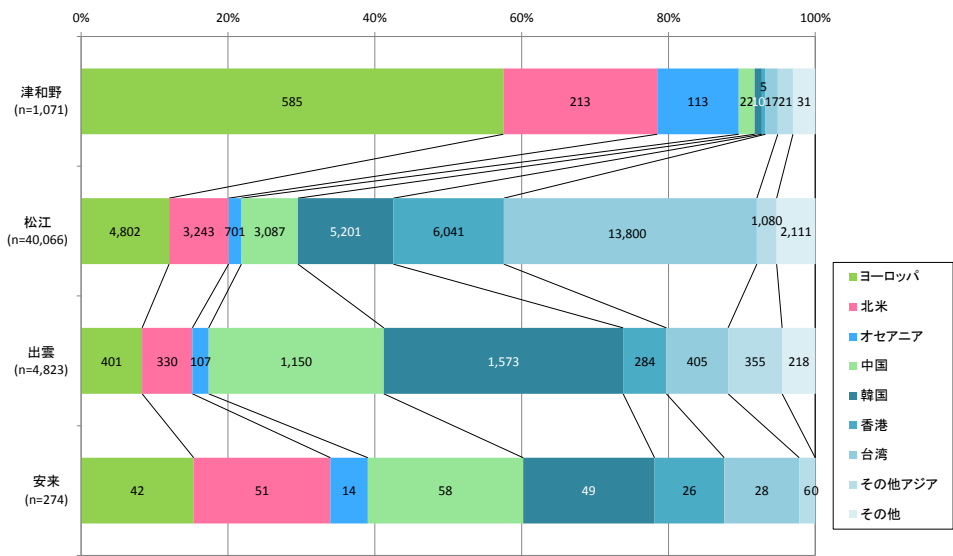


図6 外国人宿泊者の居住地内訳

津和野町には一般社団法人津和野町観光協会があり、町と連携して観光振興の一役を担っている。主な事業としては、観光案内業務や情報発信、イベントやキャンペーンの企画・運営、観光商品の造成、観光ガイドの予約の事務局機能などがある。また、津和野で行われる神事、伝統行事、祭りなどの各種伝統行事の開催支援なども行っている。津和野町観光ガイドくらは、結成から3年が経過し、観光客



への案内や対応も充実し、近年では通訳案内士の資格者も加入し、外国人への観光案内の体制も整ってきた。

津和野観光でのお土産は、源氏巻などの和菓子や地酒、わさび、和紙製品などが定番となっている。これに、ざら茶・まめ茶、鮎・うるかなどの農水産加工品が加わる。

津和野町は、島根県、山口県、広島県内自治体との広域観光連携を進めてきた。特に山口県萩市、山口市、岩国市、広島県廿日市市などとの観光連携は旅行商品として定着している。

## 2-3 津和野町観光の課題

### (1) 回遊型観光を支援するシステムの整備

まち並み回遊型観光は徒歩や自転車で一般的であるが、観光客の車や一般生活車両などとの分離ができておらず安全が図られていない。10年前にパーク&バスライド、回遊バス、トランジットモールなど、自動車を停めて歩いて楽しめる観光地を目指して社会実験を行ったが、実現化には至っていない。

このような観光行動を支援するような都市計画、交通計画が進められていないため、観光客に快適さを提供できていない。

合わせて、回遊型観光に必要な施設（トイレ、休憩施設、公園など）の整備が遅れている。また、鷲原八幡宮、堀庭園へのアクセスも考慮した回遊バスの運行も行われていない。

### (2) 観光資源を総合的に活用する仕組みづくり

津和野町には、店舗を含めたまち並み、美術館、博物館、神社仏閣、歴史的・文化的資源などを豊富に有している。しかし、それらが適切に管理されていなかったり、老朽化により整備が必要になっていたりするものも多い。



観光資源を活用していくためには、個々の資源がきちんと整備・維持管理されていることはもちろんのこと、安全かつ安心して利用できること、それを運営できる仕組みづくりが必要である。そうした環境の整った資源を一つひとつ創り上げていく必要がある。

### (3) 景観の維持向上と観光への活用

津和野町では、景観を維持するための制度として、景観条例や伝統的建造物群保存地区保存条例などがある。こうした制度を町民に十分周知して景観を適切に管理していく必要がある。また、行政においては景観を阻害する樹木や廃墟・廃屋、看板などの撤去・改善を行うため、国や県の各種制度を活用して計画的に整備を行う必要がある。

一方、高津川流域では、美しい自然や四季折々の食材を楽しむことができる。鮎釣りの時期や登山のシーズンなどには県内外から多くの来訪者があるが、その他の時期には高津川流域の魅力を観光客へ十分発信できていない。

#### (4) 日帰り型の観光地から滞在型の観光地へ

津和野町には年間約 120 万人の観光客が訪れるが、その多くが日帰り客で宿泊率が低くなっている。地域素材を活かした料理を提供できる食堂が少なく、みやげ物もバリエーションがないため観光消費額も低迷しており、経済活動に活気が見られない。

宿泊施設は老朽化した施設が多く、地域の魅力ある環境と一体化できていないため、価格を高く設定できずにいる。また、観光資源の魅力を十分発信できておらず、それらを活用した体験メニューや夜の楽しみもないため、宿泊する観光客は限定されている。

#### (5) 増加する外国人観光客に対応できる環境整備

国によるインバウンド対策のおかげもあり、津和野町を訪れる外国人観光客は年々増えてきているが、外国人が快適に観光できる環境が整っていない。Wi-Fi 環境の整備や食のメニュー表示類の多言語化、通訳の常駐、クレジットカード決済対応など、外国人が希望するサービスの充実を図り、快適な観光を提供する環境を整備する必要がある。



#### (6) 観光関連事業者の連携

観光協会を中心として、旅館組合をはじめ観光関連の個々の事業者が連携して観光振興を進めることができていない。イベントの中にはその効果が限定的、一過性となっているものもあり、見直しや、場合によっては廃止を検討していくことも必要である。



(しまね観光ナビより)

平成 28 年に実施した三大芋煮会のように他の地域と連携することで津和野の魅力を発信し、多くの集客を図ることができた。こうした事例を参考にして PR の仕方、取り組みのあり方を検証していく必要がある。

#### (7) 効果的な情報発信

津和野町の観光において、旅行雑誌に掲載されるコンテンツがいつも同じであったり、イベントのキャンペーン実施が遅れるなど、誘客に効果的な情報発信が不十分である。

ホームページや SNS を活用したスピード感のある情報発信が求められるほか、各主体がターゲットに向けて戦略的に PR することが必要である。

#### (8) 新たな発想での広域観光連携の見直し

津和野は通過型の観光となっていることから、広域的な取り組みの中でその存在感を高めていく必要がある。既存の連携体制の中には結成から数十年が経過したものもあり、取り組み内容も固定化したものもある。

平成27年度において、観光庁から認定を受けた広域観光周遊ルート「縁の道～山陰～」は、新しい連携のあり方を示したもので、共通のテーマやストーリーを重視し、より広域の連携体制を構築するモデルとなる。

周辺市町村との連携のあり方も、このような視点で改めて見直すことは、日本全国を縦断するように旅をする外国人観光客へのアプローチにとっても有効である。

## 第3章 津和野町観光のめざす姿

### 3-1 津和野町観光の基本理念

津和野町は、城下町のたたずまいを今に残す歴史的な建造物の数々とそれらが織りなす美しいまち並み、鷺舞や津和野踊、流鏝馬などの全国でも珍しい神事や伝統行事、また、明治期には日本の文化・学問に影響を与えた学識者を多く輩出してきたという豊富な歴史資源を有している。さらに、清流日本一の評価を受ける高津川や島根県最高峰の安蔵寺山、本州で最も光害が少ない夜空などの自然環境にも恵まれている。

津和野を訪れた人には、個々の観光資源をつないでストーリーをつくり、歴史・文化・自然を体感しつつ町内を回遊してもらいたい。また、津和野町にゆっくりと流れる時間を楽しみ、のんびり町民と語り合って欲しい。

そのためには、多様な観光客にストレスなく快適に観光を楽しんでいただくため、施設のバリアフリー化や Wi-Fi 整備をはじめとしたインバウンド対策を早急に推進しなければならない。そうすることでリピーターが獲得、宿泊客の増加につながり、観光消費額の増加をさせ、町内の経済の好循環を生み出すことができる。

観光関係者のみならず町民全員の力で「また来たい」と思ってもらえるようなまちづくりを推し進めていかななくてはならない。

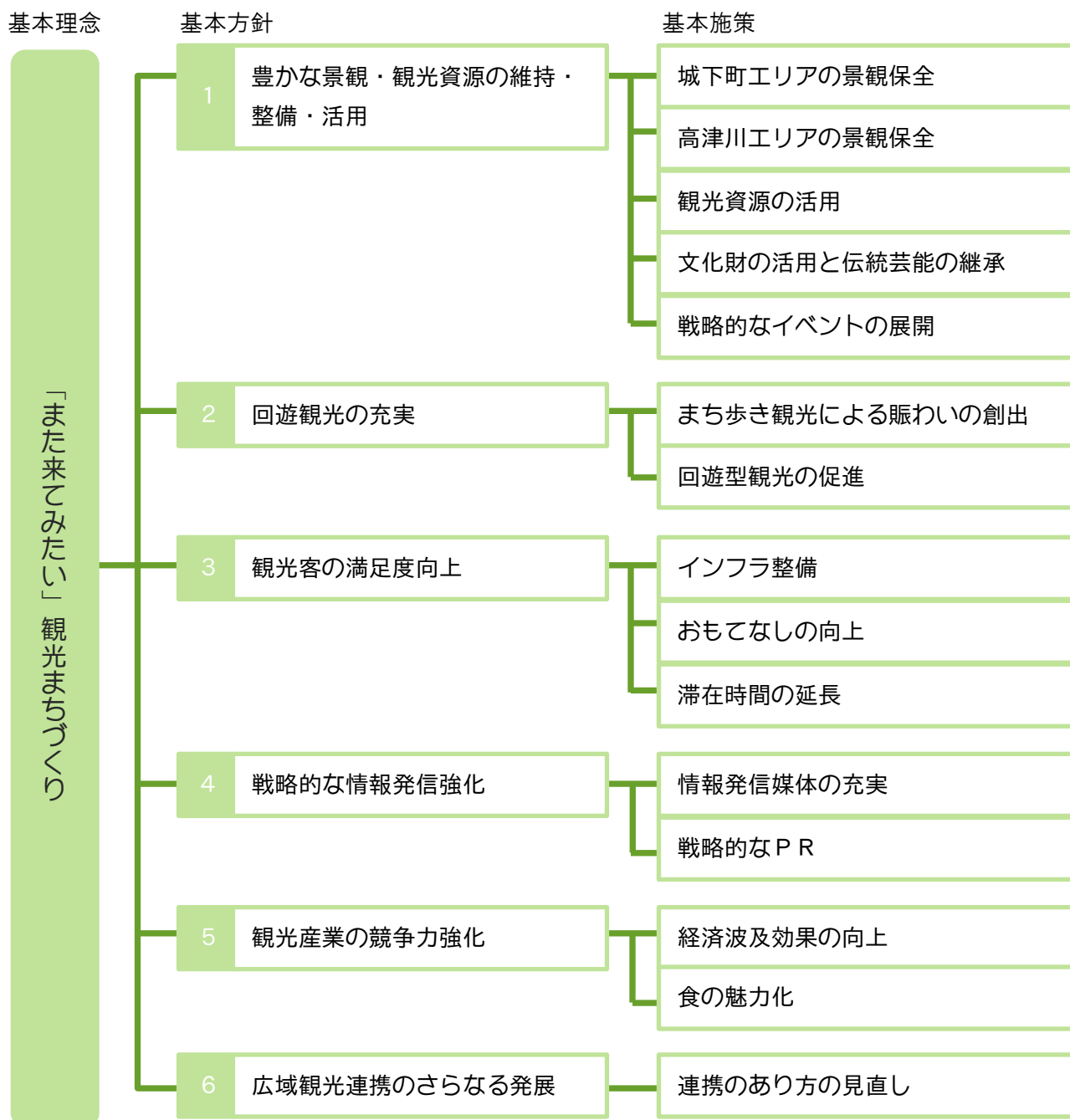
こうした考え方をもとに、津和野町観光振興計画の理念を以下のように定める。

【津和野町観光の基本理念】

**「また来てみたい」観光まちづくり**

### 3-2 津和野町観光の基本方針

基本理念である「『また来てみたい』観光まちづくり」を進めるための基本方針は以下の通りとする。





## 基本方針1 豊かな景観・観光資源の維持・整備・活用

津和野の観光を支えているのは、美しいまち並みそのものである。本町は、これまで景観計画や歴史的風致維持向上計画、伝統的建造物群保存地区保存計画などを策定してまち並み景観の整備・活用を進めている。また、美しい森づくり条例の制定により眺望される山の景観にも目を向けはじめた。さらに、清流日本一の高津川がつくる自然景観や美しい星空も観光資源として活用できる環境にある。

特に、津和野地区には中世以降の城下町の面影を良好に残し、津和野城跡や鷺原八幡宮などをはじめとした歴史的・文化的資源が豊富にある。本町は津和野町歴史文化基本構想を策定し、これらの資源を地域で保存し活用していく施策を進めており、老朽化した文化財等の整備も順次取り組んでいる。また本町においては、国の重要無形民俗文化財に指定されている「鷺舞」や島根県指定の「津和野踊」、町指定の「流鏝馬神事」などの神事や伝統行事が連綿と引き継がれ、大きな観光資源となっている。さらに、伝統芸能や文化を活かした季節ごとのイベントも開催しており、誘客に貢献している。

これらの景観・観光資源は、町民がここに住み暮らしているからこそ維持されている。今後も、町民の暮らしを基盤として、町、観光協会、商工会などの組織が連携して、豊かな景観・観光資源の維持・整備・活用を進めていくこととする。マンパワー不足が心配ではあるが、効率的、効果的なイベント運営のため、観光事業者を巻き込んだ戦略的な取り組みを進めていくものとする。

## 基本方針2 回遊型観光の充実

津和野町は、豊かな歴史文化や美しいまちなみ景観を楽しむため、ゆっくり歩いて楽しむ回遊型観光地を目指し、ハード、ソフト両面からの整備・充実を図ることで、さらに魅力を高めていくことが求められる。

ゆっくり歩いてまち並みを楽しむためには、自動車との錯綜を避け、歩行者が安心して回遊できる観光地をつくる必要がある。そのためには、まちの中央そして南北に車を止め、徒歩・自転車・バスなどで回遊できるシステムを実現させたい。

また、散策を快適にするため、町が所有する施設を開放して町民と観光客の交流の場を設けるとともに、トイレなどの便益施設の整備をさらに進めていくこととする。津和野の魅力の一つであるSLについては、その終着点としての魅力を増進させるため、利用者が待ち時間を有意義に過ごせ、子どもたちも遊べる空間を整備することが必要である。

津和野の観光を全町的にみると、畑迫地区の名勝旧堀氏庭園、そして自然景観の美しい高津川などは津和野地区から距離があり、徒歩での周遊は難しい。そのため、二次交通（周遊バスやレンタサイクル）の整備・充実を図ることとする。

日本遺産認定のきっかけとなった「津和野百景図」は、まち歩きストーリーをわかりやすく魅力的なものにする貴重な資料とも言える。津和野町日本遺産センターを中心として回遊型観光をさらに推進していくこととする。

### 基本方針 3 観光客の満足度の向上

観光客は、単に観光資源を見るだけでなく、非日常的な体験や現地で受けるおもてなしを体感することを求めている。政府が示す観光ビジョンにおいても、すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境を提供することを説いている。

津和野を訪れる人は、日本人、外国人に限らず、また健常者も障がい者も同じように観光を満喫できるようにしていきたい。津和野の観光は、まち並みを回遊する行動が中心となるため、道路や施設のバリアフリー整備、手ぶらで回遊できる仕組みづくりを構築する必要がある。そして、津和野町観光ガイドクラブや観光に従事する人が心を込めた接客を実践することはもちろん、一般住民の方々もおもてなしの心を持って観光客に接する雰囲気づくりを進めていくことが重要である。さらに観光客に文化体験や農業体験を通じて、津和野の本質に触れてもらうことで満足度の向上を図りたい。

外国人観光客に対しては、クレジットカード決済や無料でアクセスできるWi-Fiの整備、レストランのメニューの外国語表記、病気や怪我など万が一の際への対応ができる窓口の設置などに取組み、快適に観光を満喫してもらえようようにしたい。

### 基本方針 4 戦略的な情報発信強化

観光振興は、観光客に満足してもらえる観光地づくりを実践する内部充実の取組みと、それを外部に発信する「情報発信」の取組みがかみ合うことで実現できる。

情報発信は、観光キャンペーンでのPRや、ポスター、パンフレット、雑誌や新聞等の紙面、ホームページやテレビなどの各媒体が中心であったが、近年では個人によるSNSでの情報発信が思わぬ効果を上げている。これらをうまく組み合わせて情報発信を効果的に進める必要がある。

既存の神事や伝統行事など年間の行事に合わせてキャンペーンを組むなどして、効率的に情報を発信するとともに、「津和野町東京事務所」を拠点として広く都市部へも情報発信を行っていく。また、広域連携を組んでいる自治体とは連携を強めていく、それだけに頼ることなく、津和野独自のPRの手法についても模索していく必要がある。情報発信については、町・観光協会・観光事業者が早い段階から年度計画を立てて一体となって取り組むこととする。

外国人に向けては、日本語の翻訳はもとより、外国人目線で見えた津和野の魅力を外国語版ホームページやSNSでの旬の情報を含め発信していくが大切である。

## 基本方針 5 観光産業の競争力強化

津和野町は 100 万人規模の観光地であるが、観光業の一つひとつをみると零細な事業者が多く、観光産業は脆弱である。観光産業を強化するためには、観光客の消費額を増やすとともに、域内で循環する仕組みをつくることが求められる。また、観光産業は商業、農業、工業や運輸業などと密接に関係する裾野の広い産業であり、教育や保健・医療とも関わっていく要素を持っている。これらの産業と連携して、経済の活性化を図る必要がある。

農業との連携で津和野ブランドを確立するため、観光客に提供する食材の地産地消化をさらに進め、農業体験を観光メニュー化するとともに、地元農産品を活用したお土産品の開発に取り組むことも必要である。

教育との連携では、修学旅行や遠足などの誘致を図るほか、郷土館や森鷗外記念館、津和野町日本遺産センターなどを総合学習の場として活かし、それらを観光商品化することも可能である。こうして観光素材を魅力ある商品に作り上げることで、各年代層においても十分満足できる高付加価値・高価格帯のサービスを提供することが可能となる。

## 基本方針 6 広域観光連携のさらなる発展

津和野町は島根県の西端に位置し、山口県・広島県と接した位置にある。歴史的には山口市や、萩市、廿日市市や岩国市とのつながりがあり、県境を越えて観光連携を進めてきた。また、島根県の益田市、浜田市などは、石見神楽や特産品販売など共通する文化資源をもとに観光連携を進めてきている。

また、東京都文京区とは森鷗外を縁として交流が深まり、同区内に設置した津和野町東京事務所を核として文化交流、住民交流なども活発化してきている。

近年、広島市や廿日市市への外国人観光客の増加の影響を受け、津和野の外国人観光客も目に見えて増えた。また、平成 28 年度に認定を受けた広域観光周遊ルート「縁（えん）の道～山陰～」では、山陰インバウンド機構を中心とした取り組みにも期待がかかる。さらに、山口県央連携都市圏域ビジョンなどの新たな観光連携の動きもある。

これまでのように隣接している市町村との連携を核としながらも、共通のストーリーやコンテンツを持つ地域と連携をより強めていくことで、新しい津和野の魅力を発信していくことが可能となる。

### 3-3 具体的な施策

#### 基本方針1 豊かな景観・観光資源の維持・整備・活用

##### (1) 城下町エリアの景観保全

城下町のまち並みは、その東側の国道9号や西側の城跡から見おろすことができる。しかし、いずれも杉、桧などの人工林や竹林が成長し眺望を妨げるようになってきた。これらの景観阻害要素は、津和野の観光の魅力を低下させることにつながっている。

町なかから見えていた津和野城の石垣や国道9号の鳥居が、近年樹木の生育により見えにくくなっている。同時に国道9号沿いの廃屋は美しい景観を阻害する最大の要因となっているため、廃屋等を撤去するとともに、景観の視点場として整備するなど有効に活用するものとする。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
雑木林・竹林整備	景観向上	・地籍調査 ・ビュースポットの設定	-	(林業事業者) ・森林経営計画の策定・推進	協力
		・雑木林整備による バイオマス利活用 可能性調査	-	・適切な維持管理	協力
廃屋の撤去	景観向上	・整備計画 ・活用計画 ・公園整備計画	-	・適切な維持管理	協力

【凡例】 ※以降のページも同様  
 組織：観光協会、各種団体など  
 事業者：観光事業者など

##### (2) 高津川エリアの景観保全

高津川の流域には、水や緑の豊かな自然と、その恵みを大切に守りながら暮らす人々が織りなす素晴らしい環境が残っている。そして、安蔵寺山や枕瀬山の姿とも相まって、美しい自然景観を見せている。

高津川の源流の一つである安蔵寺山はブナの原生林、大ミズナラを有し、自然を楽しむ人々が多く訪れる。「仙の里よこみち」を拠点として自然体験の拠点としていく。

日原地域の恵まれた自然・食をテーマとした観光素材を、歴史・文化に根ざした津和野地区と連携させた新たな魅力を提案していく必要がある。具体的には、良質な天然鮎が遡上する高津川の釣り、川遊び、カヌー体験と、天文台やキャンプ場のある枕瀬山を連携させ、自然体験のベースを設ける。そのため「友好の森」として位置づけられた枕瀬山全体の施設の見直しや再整備が必要となる。

現在、日原中心街において古民家改修と図書館移転の整備事業が進んでおり、商店街の活性化と食をテーマとした観光客の入り込みも期待できる。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
高津川景観の維持・活用	景観向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枕瀬山トイレの整備</li> <li>・安蔵寺山の活用</li> <li>・林内の間伐等</li> <li>・美化促進</li> <li>・友好の森の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR</li> <li>・イベント活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な維持管理</li> <li>維持・管理</li> <li>・イベント開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会参加</li> <li>・環境美化</li> </ul>

### (3) 観光資源の活用

津和野町の観光資源のうち、特に有効活用していくべきものとして津和野城跡とSLが挙げられる。

津和野城跡は雄大な石垣と赤瓦の美しいまち並みを見下ろす眺望が自慢であるが、現在、山頂にはトイレや東屋などの便益施設がなく、憩いの場所としての活用が図られていないため、早急に整備を行う必要がある。

SLやまぐち号は「2016年人気のSLランキング(楽天トラベル調べ)」で第2位に選ばれるほど人気があり、年間2万人以上の観光客を運んでくる。また、SLの運行日には全国のSLファンが見物に訪れるなどの恩恵を受けており、今後もSLの終着駅としての整備やおもてなしが期待される。そのため、津和野町独自の行事とタイアップした運行を展開するなどJRと連携を強化するほか、SL到着時に輪番制でおもてなしすることで町なかへの誘導を図る。さらに、住民にSLへの手振り運動を推進する。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
城山の活用	リフト利用者の増 登山者の増	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備箇所検討</li> <li>・整備方針の検討</li> <li>・維持管理体制検討</li> <li>・看板の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報のPR</li> <li>・環境美化</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用</li> <li>・学習会参加</li> </ul>
SLの活用	運行日数確保 乗客数増大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JRとの連携強化</li> <li>・施設整備</li> <li>・手を振ろう運動の推進</li> </ul>	おもてなし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手振り運動への参加</li> <li>・おもてなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手振り運動への参加</li> </ul>

#### (4) 文化財の活用と伝統芸能の継承

津和野町において、古くから守り伝えられてきた文化財や伝統芸能を今後も継承していくことはなにより重要である。そのためにもより多くの観光客の目に触れる機会をもうけることで、やりがいを感じられ、かつ後継者の育成にもつなげていく必要がある。

したがって、それぞれの神事や芸能の映像やパンフレットなどを充実させるとともに、映像などにより広く住民や観光客に周知することが必要である。また、日本遺産等の制度を活用して商品開発を行い、伝統を継承している町というイメージをより強固なものとする。

さらに、伝統芸能・行事への参加者を増やすため、継承者育成のための育成支援制度を設けるとともに、衣装などの充実についても積極的に支援を行う。また、観光客を対象とした上演施設の整備についても検討を行うものとする。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
指定文化財マップの活用	増刷数	教育委員会・商工観光課連携	・配布 ・情報提供	積極的な理解・活用	積極的な理解・活用
日本遺産の積極的な活用	ガイドの実施回数	センター、協議会の運営	協議会の運営	商品開発	理解・協力
担い手育成	継承者・技能者の確保	・参加促進 ・支援の拡充	・参加促進 ・PR	従業員の参加協力	参加協力
老朽施設・備品の整備	来館者の増	・整備計画策定 ・支援	積極的な活用	積極的な活用	参加・活用

#### (5) 戦略的なイベントの展開

これまでたくさんのイベントを実施してきたが、いつも同じメンバーが主役となって運営するなどマンパワー不足が問題となっている。今後は、町と観光協会、商工会の3者で連携体制を構築し、イベントや行事の取捨選択を行うとともに、町内事業者や町民を巻き込んだ効率的で効果的なイベント運営を推進する。

イベントの特性に応じて取り組み内容を見直していくとともに、ターゲットを設定していち早く広報活動を行うことで、より高い効果を得られるよう努める。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
伝統芸能や文化に重点を置いたイベント・キャンペーンへの注力	イベント参加者数	・開催支援 ・協力(金的・人的)	企画・PR	主体的な参加	参加協力
連携体制構築	役割の明確化	情報共有	情報共有	協力	協力
イベントスタッフの確保	参加者数の確保	募集	住民等への募集	参加	参加
戦略的PR	参加者数、入込客数	予算の確保	PR・企画	PR協力	協力



## 基本方針2 回遊型観光の充実

### (1) 快適なまち歩き観光を支援する施設整備

津和野を訪れた観光客が、快適な回遊型のまち歩きができるように、ハード・ソフトの両面から整備を進める必要がある。

誰もが快適にまち歩きを楽しむには、まずは道路や観光施設のバリアフリー化が必要である。さらに荷物を預けるカウンターを設けて重い荷物を持ち歩かず手ぶらでまち歩きができるようにしたり、ユニバーサルデザインによるサイン整備で外国人でもストレスなく歩けるようにしたりしていく。また、まち歩きのルート上に的確に公衆トイレを整備するとともに、案内看板を整備して回遊が楽しくなるような環境を提供するものとする。

一方、立寄って津和野らしさを感じられる魅力的なお店があると、まち歩きがずっと楽しくなる。空き家・空き店舗を新たな店舗として活用しやすいように空き家バンクや店舗改修にかかる制度をより充実し、出店を促すことによって賑わいを創出する。

また、津和野の町には子どもの遊び場が不足しているため、各所に親子連れが安心して楽しめる空間を整備する。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
バリアフリー整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子で周れる観光地づくり</li> <li>・手ぶらで周れる観光地づくり</li> <li>・英語の通じる観光地づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所調査</li> <li>・整備箇所検討</li> </ul>	連携	-	-
回遊を促進するための駐車場整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通渋滞の緩和</li> <li>・無料駐車場の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズ調査</li> <li>・整備箇所検討</li> <li>・バスセンター整備</li> <li>・維持管理体制検討</li> </ul>	-	-	-
案内看板の整備	利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイン計画に基づいた看板整備</li> <li>・インバウンド対策(ユニバーサルデザイン)</li> </ul>	清掃業務	-	-
公衆トイレの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>利便性の向上</li> <li>・伝建地区内</li> <li>・西周旧居付近</li> <li>・永明寺付近</li> <li>・津和野神社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備箇所検討</li> <li>・維持管理体制検討</li> <li>・古いトイレの廃止、快適化</li> </ul>	便利マップの作成	-	-
魅力的な店舗の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家、空き地の解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き店舗実態調査</li> <li>・支援制度の充実</li> <li>・相談窓口の充実</li> </ul>	空き家・空き店舗情報の共有と提供	制度の活用	-
子どもの遊び場整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子連れの観光客の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備箇所検討</li> <li>・維持管理体制検討</li> </ul>	情報のPR	-	-

## (2) 回遊観光の促進

10 数年前に社会実験で検討した循環型の周遊バスの実現や、自転車での観光周遊を支援するサイクリングシェアシステムの構築、乗合タクシーの充実など、具体的な二次交通の整備を検討していくことが求められる。

また、観光客が多い時期には、橋北地区において交通規制を行い、車を一方通行とすることで歩行者に優しいまちあるきの環境を整える。

今後は、日本遺産となった「津和野百景図」も活用し、津和野観光の魅力をさらに高めるような観光案内ができるように、ガイドの育成やガイド内容の充実を図ることが必要である。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
鷺原や堀庭園、日原へのアクセス性向上	利用者数の増	・整備箇所検討	・情報のPR	運営	積極的に利用
サイクリングシェアシステムの構築	回遊性の向上	・システムの検討 ・駐輪場整備 ・運営組織検討	・情報のPR ・運営形態検討	協力	-
ガイド機能の充実	ガイド会員増大	学習会開催	研修制度の充実	-	ガイド参加



### 基本方針3 観光客の満足度向上

#### (1) インフラ整備

外国人観光客のおよそ30%は詳細の旅程を決めず、旅先においてインターネット等で調べながら旅をすると言われている。Wi-Fi整備はインバウンド対策としていち早く整備を行う必要がある。

また、トイレの洋式化をはじめとする宿泊施設の快適化を進めるほか、外国人観光客からの要望が多いクレジットカード、電子マネー決済への対応も急がれる。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
Wi-Fi整備	設置箇所	・計画 ・導入 ・予算の確保	PR・活用	PR・活用	-
宿泊施設の快適化	満足度向上	支援制度の拡充	情報伝達	活用	-
クレジットカード、電子マネー決済の導入	利用可能箇所	支援制度の拡充	情報伝達	導入	-

#### (2) おもてなしの向上

観光客にまた訪れたいと思ってもらうためにはインフラ整備のようなハード面での快適さを求める一方で、心配りなどのソフト面でのおもてなしも必要である。

観光ガイドクラブや観光事業者はもちろん、町民一人ひとりがおもてなしの心で観光客に接するよう心掛ける。

外国人に対するおもてなしとしては、飲食店等でのメニューを外国語表記のものを用意することでより満足度の高いサービスを提供することができる。

また、まちなみ美化活動を官民一体となって推進するほか、観光に関する様々なクレームに対して適切に処理し、再発防止に努めるための仕組みづくりを行う。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
メニュー等の外国語表記対応	実施事業者数	支援	・推進 ・相談対応	・導入 ・学習	-
まちなみ美化活動	活動回数	・機運醸成 ・参加	・機運醸成 ・参加	参加	参加
クレーム対応	クレーム数の減少	・情報共有 ・指導のシステムづくり	・情報共有 ・指導	・対応 ・再発防止	-

### (3) 滞在時間の延長

津和野町の観光の傾向として、日中の数時間滞在し、萩や湯田温泉などに宿泊する通過型の観光となっている。

これからは、まちあるきや、農業体験などの滞在型のプログラムを充実させ、まちに宿泊してもらうなどして観光消費額の増加に繋げていかななくてはならない。そのためには、町内事業者が持つ技能や特色をフルに活用していくことも必要となる。

それらを宿泊プランに反映させたり、宿独自のおもてなしプランによる魅力向上により、宿泊施設の全体的な底上げを図っていかなくてはならない。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
体験プログラムの充実	ガイド・利用者数	組織化支援	・情報のPR	メニュー開発	参加協力
宿泊施設の魅力化	宿泊者数	・支援 ・PR	・企画 ・研修会の開催	企画・実施	-

## 基本方針4 戦略的な情報発信の強化

### (1) 情報発信媒体の充実

現在もホームページやガイドマップ、facebook 等で情報発信を行っているが、インバウンドも見据え、ホームページやガイドマップの多言語化を推進する。なお、日本語版のホームページやガイドマップをただ翻訳するだけでは外国人への訴求力は弱いと見られるため、外国人が興味を持つような構成や内容とする。

また、テレビや雑誌などのメディアに掲載される津和野の姿が固定化されていることから、新たなコンテンツを提案することで、新しい魅力を発信し続ける必要がある。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
ホームページの多言語化	アクセス数	支援・実践	実践・指導	実践・活用	閲覧・PR
ガイドマップの多言語化	印刷部数	支援・作成	協力	配布	配布
メディア(テレビ、雑誌)への発信内容の充実	発信回数	・支援 ・企画、発信	企画・発信	内容充実のための協力	協力

### (2) 戦略的なPR

これまで、多数のイベントの対応に追われていたこともあり、一つひとつのイベントに対して早期の情報発信が十分にできていなかった。

そこで、町、観光協会、商工会の関係者に町内事業を交えて観光総合戦略会議（仮称）を立上げ、定期的を実施し、半年～1年後を見据えた計画的な観光イベントの企画および情報発信について検討する。また、東京事務所を拠点に都市部への効果的なPRにも取り組むものとする。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
観光総合戦略会議の実施	実施回数	戦略会議への参画	戦略会議への参画	戦略会議への参画	-
東京事務所の活用	石見空港利用者の増	情報共有・発信	情報共有・発信	活用	活用(行く)
旅行エージェント等への営業	旅行商品造成数	事業者に行	事業者に行	協力・参加	-
SNSの有効活用	「いいね」、フォロワーの数	PR	研修会の開催	発信	発信

## 基本方針5 観光産業の競争力強化

### (1) 経済波及効果の向上

観光産業を強化するためには、観光客の消費額を増加し、その消費額を域内循環させることが求められる。そのためには、特定の卸売り業者に頼ることなく、町内事業者が連携し、地域資源を活用した新たな商品開発を行うことが求められる。

また、津和野町の本物に触れ、その魅力を感じる人に向けた高付加価値・高価格帯のサービスを提供することで新たな観光産業の基盤づくりを進める。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
地域資源を活用した商品開発	商品開発数	補助、支援制度	企画	主体的な参加	協力
富裕層等に対する高付加価値サービスの提供	町家ステイ宿泊者数	・施設整備 ・支援制度	企画	体験メニュー開発	協力

### (2) 食の魅力向上

観光客の満足度を上げるコンテンツの一つとして「食」がある。「食」は、ここ津和野でとれた食材を提供することがなにより重要である。現状では、そのような体制ができていない飲食店、旅館も多い。そのため、地元食材を利用する事業者を支援する制度を検討し、観光客の満足度を高めるとともに、地域内での経済循環も意識した供給体制の構築を目指す。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
食の魅力化	新規メニュー数	支援制度の検討	・支援 ・取組み店募集のためのPR	主体的な参加	生産・提供協力

## 基本方針6 広域観光連携のさらなる発展

### (1) 連携のあり方の見直し

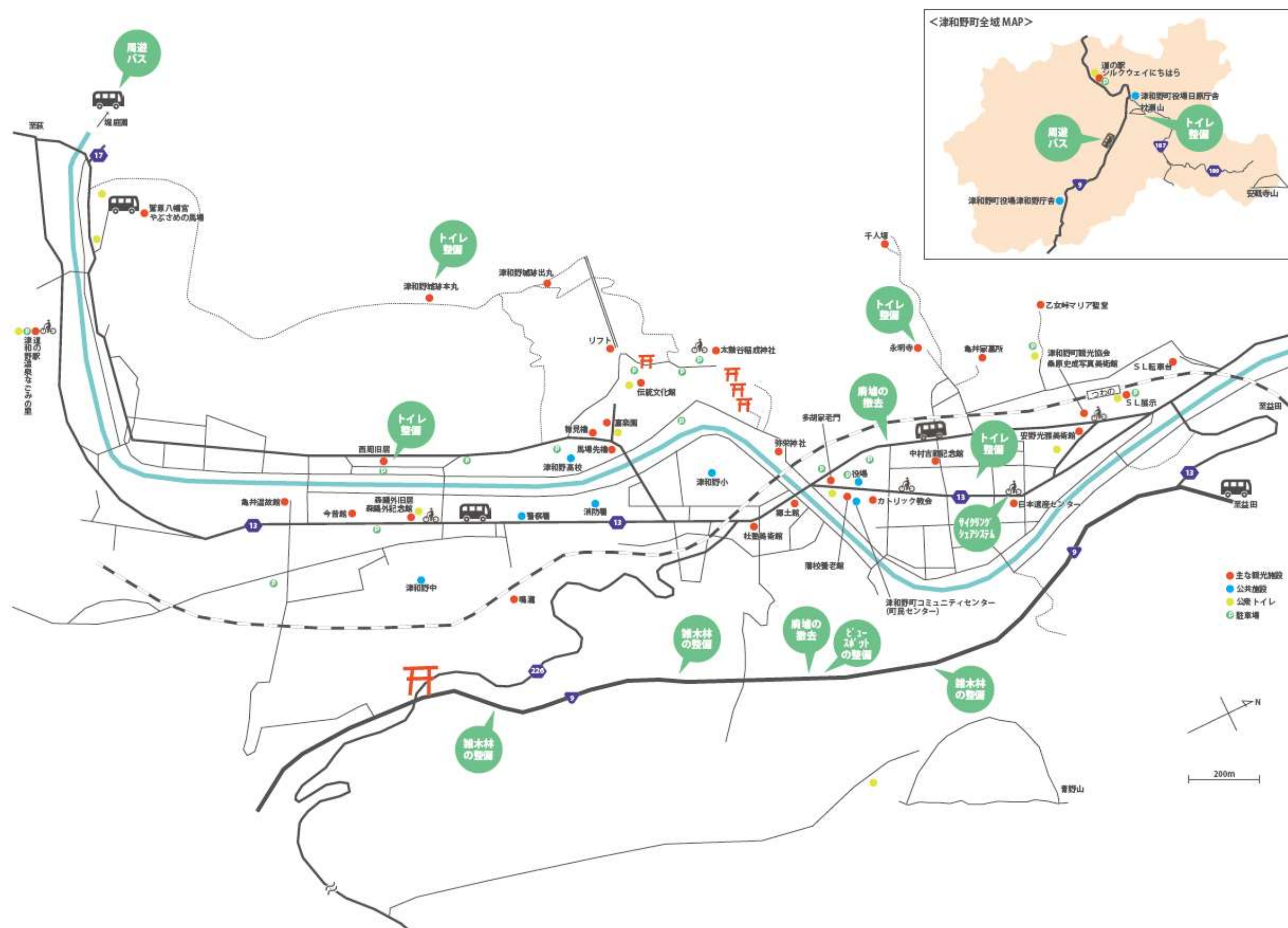
津和野町ではこれまで、近隣市町との周遊観光を促すことを目的に様々な連携体制を構築してきた。しかし、時代の移り変わり等により、有効に機能していない連携もみられはじめたことから、広域連携のあり方を見直す必要がある。

単に隣接しているというだけでの連携ではなく、これからは共通事項やストーリー性を重視した連携を模索する。例えば、森鷗外を共通項とした東京都文京区・福岡県北九州市などとの連携、日本三大芋煮の愛媛県大洲市、山形県中山町との連携や、津和野・廿日市街道などもある。

このような、よりテーマ性のある連携の枠組みの検討を進める。

具体的施策	目指す姿(成果指標)	各主体の役割			
		行政	組織	事業者	住民
連携のあり方の見直し	新たな連携の枠組み数	新たな連携のシナリオ検討	新たな連携の枠組みでの商品開発等の企画	新たな連携の枠組みでの商品開発	-

■整備イメージマップ



## 第4章 津和野町観光の推進体制

津和野町観光の基本理念である「また来てみたい 観光まちづくり」を進めるため、行政、事業者、組織（主に観光協会）、町民それぞれが果たすべき役割を認識し、相互に連携、協力する一体的な推進体制の構築を目指す。

### 4-1 観光振興計画推進のための各主体の主な役割

#### 1. 行政の役割

庁内の連携、観光事業者や町民との協議・調整を図りながら、観光まちづくりを推進するほか、関係組織や観光事業者の主体的な取り組みを支援する。

また、町独自の観光入込客動態調査等を実施することで、より現実的な観光動態を把握し、観光事業者や観光協会などと情報を共有し合うことで、課題の解決に努める。

#### 2. 組織（主に観光協会）の役割

行政と観光事業者との橋渡し役として、的確な情報伝達や観光事業者の意見集約などを行う。また、対外的なPRや各種イベントの支援、他地域との連携を瀬っこ区的に行う。また、観光事業者のおもてなし力向上のための研修等を企画する。

#### 3. 事業者の役割

町全体で観光を盛り上げようという意識のもと、主体的な取り組みやPRを実施する。また、観光産業による経済波及効果を高めるという視点を持ち、町内事業者同士で連携して新たなサービス・商品を生み出すよう努める。

#### 4. 町民の役割

町民一人一人が観光産業の担い手として、まずは伝統行事等を後世に受け継ぐという意識を持ち、積極的に参加・参画する。また、その価値や魅力を、誇りを持って町内外の知人・友人へ伝える。

## 4-2 津和野町観光の推進体制

本計画に掲げる施策の実施には、行政、事業者、組織が一体となった推進体制が求められる。

今後、「観光総合戦略会議（仮称）」を設け、観光施策を取捨選択しながら効果的な事業を実施していくための体制を構築する。観光総合戦略会議は町、津和野町観光協会、津和野町商工会、事業者（町内観光エージェント・各団体）で構成する。

観光総合戦略会議（仮称）での決定事項（年間事業計画、観光キャンペーン等）はただちに町内事業者や町民、津和野町東京事務所等へ情報をリリースし、各主体が的確に動けるようにしていく。観光総合戦略会議（仮称）は、町全体で観光事業を展開していくためのエンジンとしての役割をもつ。

